

令和3年度 厚生労働科学研究費補助金(認知症政策研究事業)
併存疾患に注目した認知症重症化予防のための研究

分担研究報告書
認知症と心疾患に関する研究

研究分担者 石川 譲治 東京都健康長寿医療センター 循環器内科 部長

研究要旨: 高齢心不全患者(平均年齢 85.8±7.7 歳、女性 61.3%)の 50~75%程度が DASC21 スコア 31 以上の認知機能低下を有していた。認知機能低下を有する高齢心不全患者は、高齢、貧血、低アルブミン(低栄養)、腎機能障害、および尿素窒素高値を認めており、これらの併存病態の管理も重要であると考えられた。

A. 研究目的

高齢心不全患者において、認知機能障害が高頻度に認められ、認知機能障害の存在が高齢心不全患者の管理にどの程度影響を与えているかどうかは不明な点が多い。本研究の目的は、高齢心不全患者における認知機能低下や生活機能の低下が心不全の管理状況、予後に与える影響を明らかにすることである。

B. 研究方法

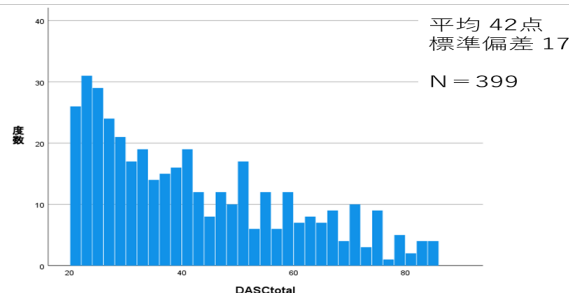
対象は 2016 年~2019 年までに東京都健康長寿医療センターに心不全の診断で入院 Dementia assessment score(DASC)21 を用いて認知機能障害の程度や生活機能の評価が可能であった 399 名を対象とした。DASC21 の 4 分における背景の違いは分散分析および χ^2 乗検定で評価し、最大 4 分位とその他の 3 分位との差における規定因子はロジスティック回帰を用いて評価した。

C. 研究結果

平均年齢 85.8±7.7 歳、女性 61.3%、Body mass index (BMI) 23.0±4.1kg/m²、DASC21 スコアは平均 42±17、50~75%程度の患者が DASC21 スコア 31 以上の認知機能低

下を有していた。ロジスティック回帰における DASC21 の最大 4 分位(55 以上)の規定因子は、年齢 [オッズ比(OR)=0.087, 95%信頼区間(CI) 1.038-1.147, P<0.001], ヘモグロビン(OR=0.193, 95%CI 1.025-1.436, P=0.025), 尿素窒素 (OR=0.051, 95%CI 1.020-1.087, P=0.001), クレアチニン (OR=-0.073, 95%CI 0.150-0.781, P=0.011), アルブミン (OR -0.247, 95%CI 0.147-0.558, P<0.001)であった。

DASC21のヒストグラム



D. 考察

認知機能低下を有する高齢心不全患者は、貧血、低栄養、腎機能低下が認められ、これらの併存疾患の管理が重要であると考えられた。DASC21 の程度により入院期間や入院中の生活の質の低下の程度がどの程度異なるのか? 再入院率がどの程度異なる

るのかを追跡データで評価する予定である。

E. 結論

認知機能低下を有する高齢心不全患者では、貧血、栄養、腎機能の管理が重要である

F. 健康危険情報:なし

G. 研究発表

Ishikawa J, et al. The relationship between blood pressure and cognitive function. Int J Cardiol Cardiovasc Risk Prev. 2021.

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし